

1601A

イギリス文学と文化に親しむ

くまた読みたい「シャーロック・ホームズ」

前期

## イギリス文学と文化に親しむ

～また読みたい「シャーロック・ホームズ」～ 前期

関連する SDGs :



期 間：2024 年 5/20 (月) ～7/29 (月) [全 10 回]

期 所：尚絅学院大学地域連携交流プラザ

〒981-1294 名取市せきのした 5-3-1

(イオンモール名取あおばコート 3 階)

時 間：10:30～12:00

対 象 者：探偵小説を深く読んでみたい方にお勧め。時に英文も参照しますが、和訳本を読みます。

教 材：授業用資料を配布。『シャーロック・ホームズの冒険』延原謙訳、新潮文庫、605 円 (各自購入)

修了要件：80%以上出席の方に修了証を授与。毎回、講義に関する短いコメントをお願いしています。

## 申込フォーム

スマートフォンからも  
お申込みできます

定 員：20 名

最少催行人数：8 名

受 講 料：13,000 円

## 受講生へのメッセージ

コナン・ドイル作『シャーロック・ホームズの冒険』(和訳)を読みます。未読の方でも理解できるように、講義内容を配布資料にし、視覚教材を参考にしながら、読解します。作品の構成を知り、社会的な背景知識があると、今まで気づけなかったことに会い、ホームズの世界が広がります。一緒にヴィクトリア朝の英国をのぞいてみましょう。

事前に作品を読んでいただくと、講義内容の理解が、とても容易になります。

日程	テーマ・内容	講 師
第 1 回 5/20	シリーズ第 1 作『緋色の研究』を題材に、ホームズとワトソンの出会い、二人の人物像、ホームズの推理方法、語り手の性格、などの小説における創作の技法を考えましょう。	小原 俊文 尚絅学院大学 名誉教授 
第 2 回 5/27	『シャーロック・ホームズの冒険』から「ボスコム谷の惨劇」を読みます。作品の紹介を兼ねて、登場人物、筋の展開の整理をしましょう。	
第 3 回 6/3	引き続き「ボスコム谷の惨劇」を講読、解説します。ヴィクトリア朝英国の帝国支配の時代に、逆に外国への恐怖が増大していた歴史的事実を踏まえて、読み込んでみましょう。	
第 4 回 6/10	「ボスコム谷の惨劇」の第 3 回目です。探偵小説の基本要素である、被害者と犯人について考えてみます。探偵小説の謎は、犯人は誰？犯行の手口は？の二点ですが動機の解明も大切です。	
第 5 回 6/17	『シャーロック・ホームズの冒険』から「唇の振れた男」を読み、登場人物、筋の展開を整理します。テキストを読み進めますが、事件の依頼から捜査の段階を詳しく見ていきましょう。	
第 6 回 6/24	「唇の振れた男」の第 2 回目の講読です。当時の英国の帝国主義政策の一環としてのアヘン戦争に触れます。アヘンの栽培と交易の社会的影響を小説に読み込んでみましょう。	
第 7 回 7/1	「唇の振れた男」の第 3 回目です。中世ヨーロッパでは、王の使用人としての道化がありました。その役割を主に文学作品の点から考え、テキストを読みこんでみます。	
第 8 回 7/8	『シャーロック・ホームズの冒険』から「柵屋敷」を読みます。作品の人物設定と筋の展開を整理します。冒頭のワトソンとホームズの会話から、依頼人の登場と退場までを読みます。	
第 9 回 7/22	「柵屋敷」の第 2 回目です。当時の女性家庭教師の存在について考えます。当時は 女性の社会的地位には大きな制限がありました。これが後に女性参政権運動にも結び付いていきます。	
第 10 回 7/29	「柵屋敷」の第 3 回目講読です。ドイルの遺伝に関する懸念、都会と田舎の比較などが現われています。社会背景への理解をもとに、より深い作品鑑賞を心がけてみましょう。	